

安全なドライブのために

お車のご使用前に知っておいていただきたいこと、守っていただきたい「警告」「注意」をまとめて記載しています。

重要ですので、しっかりお読みください。

日常点検	2- 2
出発前は	2- 4
お子さまを乗せるときは	2- 6
走行するときは	2- 9
走行中に異常に気づいたら	2- 12
オートマチック車の取り扱い	2- 13
駐停車するときは	2- 17
こんなことにも注意	2- 19
セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは	2- 22

日常点検

J00200100894

点検、整備を忘れずに

- 日常点検整備と定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。
事故や故障を未然に防ぐため必ず実施してください。
- 日常点検整備は、長距離を走行するときや、洗車、給油時などにお客さま自分で行う点検整備です。
- 日常点検整備の項目および点検のしかたについては、別冊の「メンテナンスノート」に記載しておりますので必ずお読みください。

エンジンルームを点検するときは

- エンジン回転中はエンジンルームに手を入れないでください。
手や衣服がドライブベルトなどに巻き込まれるおそれがあります。
- エンジンルーム内の部品には高温になるものがあります。
やけどをするおそれがありますので、各部が十分冷えてから点検してください。
- 排気ガスなどが定められた基準に合うように調整されていますので、アイドリング回転数などのエンジン調整は日産販売会社で行ってください。

ラジエーターやリザーバータンク（冷却水）が熱いときは

- ラジエーターやリザーバータンク（冷却水）が熱いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。
蒸気や熱湯が吹き出しやけどをするおそれがあります。

燃料は指定されたものを補給

J00202000477

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。
- 軽油や有鉛ガソリン、粗悪ガソリン、高濃度アルコール混合燃料、日産純正部品以外のガソリン添加剤（含む、水分除去剤）を使用しないでください。エンジンや燃料装置などに悪影響をおよぼしたり、排気ガス浄化装置や燃料噴射装置が損傷するおそれがあります。

→「メンテナンスデータ」P. 14-2

日産販売会社で点検を受けてください

J00202100045

- つぎの場合は車が故障しているおそれがあります。
そのままにしておくと走行に悪影響をおよぼしたり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
日産販売会社で点検を受けてください。
 - ・いつもと違う音や臭いや振動がするとき
 - ・ブレーキ液が不足しているとき
 - ・地面に油の漏れたあとが残っているとき

出発前は

J00200201182

シートベルトは必ず着用

- 運転する前に必ずシートベルトを着用してください。
→「シートベルト」P. 5-12
- 同乗者にもシートベルトを着用させてください。



AAA003372

燃料の入った容器やスプレー缶類を車の中に持ち込まない

- 燃料の入った容器やスプレー缶類を車の中に持ち込まないでください。容器が破裂したり、蒸発ガスに引火し爆発するおそれがあります。



AAA003385

窓越しにエンジンをかけない

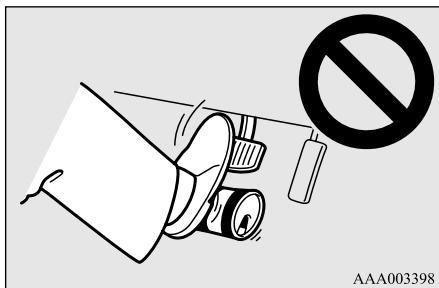
- 窓越しなど車外からエンジンをかけないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 正しい運転姿勢で運転席に座り、エンジンをかける習慣をつけましょう。
- マニュアル車は、シフトレバーをNに入れ、クラッチペダルをいっぱいまで踏み込みます。オートマチック車は、セレクトレバーがPの位置にあることを確認します。いずれの場合も思わぬ事故を避けるため、ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んでエンジンをかける習慣をつけてください。
→「エンジンのかけ方」P. 7-7
- マニュアル車はクラッチ・スタートシステムが装着されています。

クラッチ・スタートシステムとは…

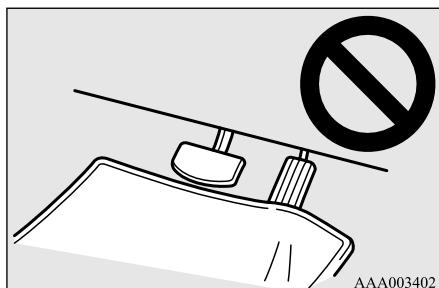
- 誤操作を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとエンジンがかからない装置です。

運転席の足元付近を点検

- ブレーキペダルの下に物がころがり込むと、ブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
出発前に運転席の足元付近を点検してください。



- お客様のお車専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。
フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
→「フロアカーペット」P. 8-8



荷物を積むときは

J0020300067

- 荷物は必ず指定積載重量までにしてください。
2人乗りの場合：350kg
4人乗りの場合：250kg
- 荷物はできるだけ低くし、シートの高さ以上に積まないでください。
後方の確認ができなくなったり、急ブレーキをかけたときに荷物が前方に飛び出してケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、コーナリングのときに車の揺れが大きくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 重い荷物は、できるだけ前の方に積んでください。後ろの方が重くなるとハンドルが不安定になります。
- 荷物は荷くずれしないように、しっかりと固定してください。

周囲が囲まれた換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしない

J00203200056

- 周囲が囲まれた換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。
排気ガスが車内や建物内などに充満して、ガス中毒になるおそれがあります。
- やむを得ないときは、換気を十分に行ってください。

お子さまを乗せるときは

J00200301369

お子さまを助手席に乗せるのは避ける

- 助手席ではお子さまの動作が気になり運転の妨げになるだけでなく、お子さまが運転装置にふれて、重大な事故につながるおそれがあります。
- やむを得ず助手席にお子さまを乗せるときでも、つぎのことをお守りください。
 - ・必ずシートベルトを着用する
 - ・シートに深く腰かけて、背もたれに背中がついた正しい姿勢で座らせる
- お子さまがシートベルトやチャイルドシートを使用せずにインストルメントパネルの前に立っていたり、助手席に正しい姿勢で座っていなかったりすると、SRSエアバッグが膨らむ際、SRSエアバッグにより、命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあります。



お子さまにもシートベルトを必ず着用させる

- ひざの上にお子さまを抱かないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなど、腕だけでは十分に支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。



- リヤシートでも必ずシートベルトを着用してください。

お子さまにはチャイルドシートを使用する

- シートベルトを着けたとき、肩部のベルトが首、あご、顔などに当たる場合や、腰部ベルトが腰骨にかからないような小さなお子さまには、体格に合ったチャイルドシートを使用してください。

→「チャイルドシート」P. 5-16

通常のシートベルトでは、衝突のとき強い圧迫を受け、シートベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 6才未満のお子さまは、チャイルドシートの使用が法律で義務付けられています。
- 助手席に乳児用チャイルドシートなど後ろ向き装着のチャイルドシートは絶対に取り付けないでください。助手席SRSエアバッグが膨らむとき、強い力が後ろ向きチャイルドシートの上部にかかり、背もたれに押しつけられて、命にかかる重大な傷害を受けるおそれがあります。



お子さまの安全のための装備

- お子さまの安全のため、つぎのような装備があります。

使い方を一度お読みになって、お子さまの安全にお役立てください。

◆ 挟み込み防止機構付パワーウィンドウ タイプ別装備

- 万一、お子さまが手や首などをはさんだとき、自動的にドアガラスが少し下がります。

→「挟み込み防止機構」P. 4-14

◆ ロックスイッチ タイプ別装備

- ロックスイッチをONにすると、助手席スイッチを操作してもドアガラスは開閉できなくなります。

→「ロックスイッチ」P. 4-13

◆ チャイルドセーフティドアロック(スライドドア) タイプ別装備

- ドアにあるレバーを施錠側にしておくと、後席ドアが車内から開けられなくなります。

→「チャイルドセーフティドアロック(スライドドア)」P. 4-8

ドア、ウインドウ、シートの操作は大人が行う

- 手や顔などをはさまないよう注意して操作してください。
- お子さまが誤って操作しないよう、パワーウィンドウにはロックスイッチをお使いください。

窓から手や顔を出させない

- 窓から手や顔を出していると、車外の物などに当たったり、急ブレーキをかけたとき、重大な傷害を受けるおそれがあります。



お子さまをシートベルトで遊ばせない

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
ベルトを身体に巻き付けたりして遊んでいると、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
万一、シートベルトが外せなくなったらときは、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときはキーを抜いてお子さまも一緒に

- お子さまだけを車内に残さないでください。
炎天下での車内は高温となり、熱中症になるおそれがあります。
- キーを差したままにしておくと、お子さまのいたずらにより、パワーウィンドウなど電装品の誤った操作、車の発進、火災など、重大な事故につながるおそれがあります。



走行するときは

発進するときは

- 駐車後や信号待ちなどで停車したあとは、子どもや障害物など、車のまわりの安全を十分確認してから発進してください。
- 車をバックさせるときは目で後方を確認してください。
バックミラーでは確認できない死角があります。

同乗者はシートを倒して寝ころばない

- 走行中、同乗者はシートを倒して寝ころばないでください。
シートを倒して寝ころんでいると、急ブレーキをかけたときや衝突したときなど、身体がシートベルトの下にもぐり込み、重大な傷害を受けるおそれがあります。



走行中はエンジンを止めない

- 走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが非常に重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避ける

- 急ブレーキや急ハンドルは車両のコントロールができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
スピードを控えめにし、ハンドルやブレーキ操作を慎重に行い安全運転に心がけてください。

雨天時や水たまりを走行するときは

J00202200626

- 雨天時やぬれた道路ではスピードを控えめにし、ハンドルやブレーキ操作を慎重に行い安全運転に心がけてください。
特に雨の降りはじめは路面が滑りやすいため注意してください。
- 水たまり走行後や洗車後、ブレーキに水がかかると一時的にブレーキの効きが悪くなることがあります。
ブレーキの効きが悪いときは、前後の車や道路状況に十分注意して低速で走行しながらブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
- わだちなど水のたまっている場所を高速で走行すると、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。
- タイヤがすり減っていたり、空気圧が適正でないと、スリップしたり、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

ハイドロプレーニング現象とは…

- 水のたまっている道路を高速で走行するとき、あるスピード以上になるとタイヤが路面の水を排除できず、水上を滑走する状態になり、車のコントロールが効かなくなる現象。

下り坂ではエンジンブレーキを併用

J00202300799

- ぬれた道路や凍結した道路での急激なエンジンブレーキは避けてください。
スリップして重大な事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂でフットブレーキのみを多く使用すると、ベーパロックやフェード現象を起こし、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
坂の勾配に応じて必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキとは…

- 走行中、アクセルペダルから足を離したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよく効きます。
オートマチック車はセレクトレバーを②または④に入れてください。
マニュアル車はシフトレバーを③、
②または①に入れてください。

ペーパロックとは…

- ブレーキ液がブレーキの摩擦熱により過熱されて沸騰することにより気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも気泡を圧縮するだけでブレーキが効かなくなる現象。

フェード現象とは…

- ブレーキパッドまたは、ブレーキライニングの摩擦面が過熱されることにより摩擦力が低下し、ブレーキの効きが悪くなる現象。

ブレーキペダルをフットレストがわりにしない

J00202400019

- ブレーキペダルに常に足をのせ、フットレストがわりにすることは避けてください。
ブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して、効きが悪くなるおそれがあります。

クラッチペダルに足をのせたまま走行しない

J00202500023

- クラッチペダルに足をのせたまま走行したり、必要以上に長い時間半クラッチ状態を続けないでください。
クラッチが早く摩耗したり、過熱して、思わぬ事故につながるおそれがあります。

スタック（立ち往生）したときは

J00202600011

- スタックしたときは、タイヤを高速で回転させないでください。
タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
→「タイヤがスリップして発進できない」P. 13-7

寒冷時にブレーキの効きが悪くなったときは

J00202700139

- 寒冷時や雪道走行ではブレーキ装置に付着した雪や氷が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。
ブレーキの効きが悪いときは、前後の車や道路状況に十分注意して低速で走行しながらブレーキの効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。

段差などを通過するときは

J00202800273

- 段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。
段差や凹凸のある路面を通過するときの衝撃によりタイヤおよびホイールを損傷するおそれがあります。
またつぎのような場合、車体、バンパー、マフラーなどを損傷するおそれがありますので十分注意してください。

- ・駐車場の出入口
- ・路肩や車止めのある場所
- ・勾配の急な場所
- ・わだちのある道路

走行中に異常に気づいたら

J002005000944

万一、走行中にエンストしたときは

- 走行中にエンストしたときは、運転操作に変化がおきますので、つぎの点に注意して車を安全な場所に止めてください。
 - ・ブレーキ倍力装置が働かなくなるため、ブレーキの効きが非常に悪くなります。
 - ・通常よりブレーキペダルを強く踏み続けてください。
 - ブレーキペダルから足を離し、再び踏み直すと、ブレーキの効きがさらに悪くなります。
 - ・万一、スピードが落ちないときは、パーキングブレーキを慎重にかけてください。
 - このときも、ブレーキペダルは強く踏み続けてください。
 - ・パワーステアリング装置が働かなくなるため、ハンドルが非常に重くなります。

走行中にタイヤがパンクまたはバースト(破裂)したときは

- 走行中にタイヤがパンクまたはバーストすると、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- ハンドルをしっかりと持ち、徐々にブレーキをかけてスピードを落としてください。
- つぎのようなときは、パンクやバーストが考えられます。
 - ・ハンドルがとられるとき
 - ・異常な振動があるとき
 - ・車両が異常に傾いたとき

警告灯が点灯または点滅したときは

- 警告灯が点灯または点滅したときは、安全な場所に停車し、適切な処置をしてください。
 - 「警告灯が点灯または点滅したときは！」P. 13-2
- 点灯または点滅したまま走行すると、思わぬ事故を引き起こしたり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

車体床下に強い衝撃を受けたときは

- 車体床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に車を止めて下まわりを点検してください。
- ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などがあると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 漏れや損傷などが見つかったときは、そのまま使用せず日産販売会社にご連絡ください。

オートマチック車の取り扱い

J00200600626

オートマチック車の特性

クリープ現象とは…

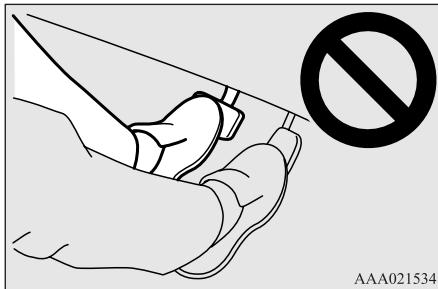
- セレクトレバーをP, N以外に入れると動力がつながった状態となり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出すオートマチック車特有の現象。

キックダウンとは…

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと、自動的に低速ギヤに切り換わり急加速ができます。これをキックダウンといいます。

ブレーキペダルは右足で

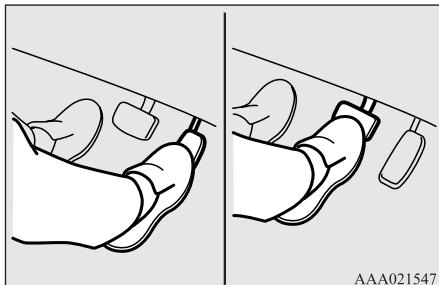
- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切な操作ができず、重大な事故につながるおそれがあります。



エンジンをかける前に

J00201100468

- アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いを防ぐため、各ペダルの位置を右足で確認してください。アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏んだり、両方のペダルを同時に踏んでしまうと、車が急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。



- セレクトレバーがPの位置にあることを確認してください。



エンジンをかけるときは

J00201200283

- ブレーキペダルを右足で踏んだままエンジンをかけます。
アクセルペダルを踏まないとエンジンがかかりにくいときは、エンジンをかけてから足をブレーキペダルに踏みかえます。
→「エンジンのかけ方」P. 7-7

エンジン始動後

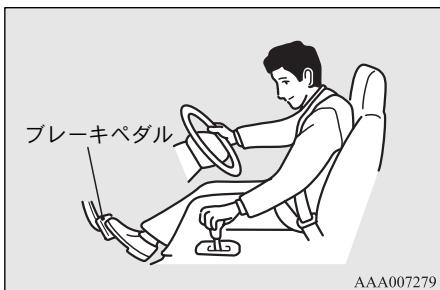
J00201300213

- エンジン始動直後は、自動的にエンジン回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。
ブレーキペダルをしっかり踏んでください。

セレクトレバーを操作するときは

J00201400302

- ブレーキペダルを右足で踏んだままセレクトレバーを操作します。



- アクセルペダルを踏み込みながらセレクトレバーを操作しないでください。

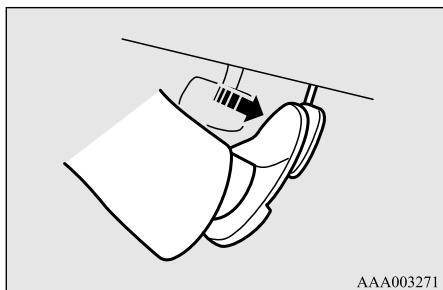
急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
また、トランスミッションの故障の原因になります。

- **R**に入れるとブザーが鳴ります。
ブザーは車の外には聞こえませんので注意してください。

発進するときは

J00201500039

- 発進するときは、ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み込んでください。



AAA003271

走行中は

J00201600476

- 走行中は、セレクトレバーを **N** に入れないでください。
エンジンブレーキがまったく効かなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、誤って **P**, **R** に入れてしまった場合、トランスミッションの故障の原因になります。
- 高速走行中にセレクトレバーを **L** に入れないでください。
急激なエンジンブレーキがかかり、思わぬ事故の原因になります。

停車中は

J00201700057

- エアコン作動時などは、自動的にエンジン回転数が高くなり、クリープ現象が強くなります。
ブレーキペダルをしっかり踏んでください。
- 停車中は、むやみに空ぶかしをしないでください。
万一、セレクトレバーが **P**, **N** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進の原因になります。

駐車するときは

J00201800595

- 駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーを **P** に入れます。
- 車が完全に止まらないうちに **P** に入れると、急停止してけがをするおそれがあります。
また、トランスミッションの故障の原因になります。
- 車から離れるときは、必ずエンジンを止め、キーを抜いてください。
エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーが **P**, **N** 以外に入っていた場合、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

その他に気をつけること

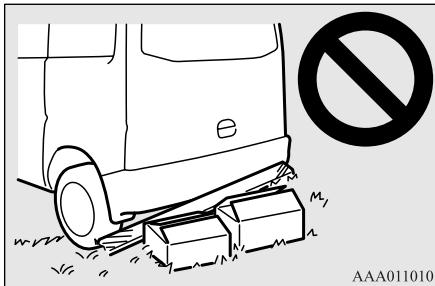
J0020190022

- 車を少し移動させるときでも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- 少しだけ後退したときなどは、セレクトレバーが**R**に入っていることを忘れてしまうことがあります。
後退したあとは、すぐに**R**から**P**または**N**に戻す習慣をつけましょう。
- 車を後退させるときは、身体を後ろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。
ブレーキペダルが確実に踏めるように注意してください。
- 切り返しなどで**D**から**R**, **R**から**D**と何度もレバーを操作するときは、そのつどブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
車が動いているうちに**P**や**R**に入れると、トランスミッションの故障の原因になります。

駐停車するときは

燃えやすいものの近くには車を止めない

- 枯草や紙など燃えやすいものの近くには車を止めないでください。走行後の排気管は高温になっているため、火災になるおそれがあります。



長時間のアイドリングは避ける

- 長く停車するときは、エンジンを止めてください。燃料の無駄使いであると同時に、騒音や排気ガスにより周辺への迷惑となります。

車から離れるときは

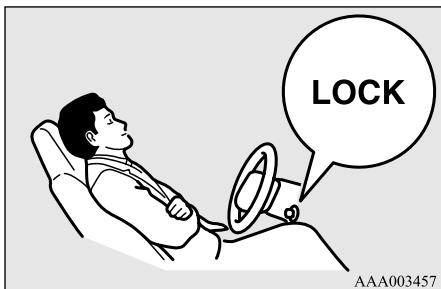
- 車が無人で動き出したり、盗難にあうことがありますので、車から離れるときは必ずつきのことをお守りください。
- ・パーキングブレーキをかける。
- ・マニュアル車はシフトレバーを①または②に、オートマチック車はセレクトレバーをPに入れる。
- ・エンジンを止める。
- ・キーを抜き、ドアを施錠する。
- また、施錠していても車内に貴重品を置いたままにしないでください。

車を移動するときは必ずエンジンを始動する

- エンジンがかかっていないと、ブレーキの効きが非常に悪くなったり、ハンドルが非常に重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。坂道で車を移動させるときも、必ずエンジンをかけてください。

仮眠するときは必ずエンジンを止める

- 排気ガスが車内に侵入して、ガス中毒になるおそれがあります。
- 無意識にシフトレバーやセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルの踏み込みにより、不用意な発進など、重大な事故につながるおそれがあります。
- 無意識にアクセルペダルを踏み続けたときに、オーバーヒートを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱により、火災事故が発生するおそれがあります。



坂道に駐車するときは

- 坂道に駐車するときは、パーキングブレーキを確実にかけ、マニュアル車はシフトレバーを①または②、オートマチック車はセレクトレバーを③に入れてください。さらに輪止めをすると効果があります。
輪止めは標準で搭載されておりませんので必要に応じて準備してください。
- 輪止めがないときは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
- 急な坂道での駐車は避けてください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは必ずエンジンを止める

- エンジンがかった状態で、車のまわりに雪が積もると排気ガスが車内に侵入して、ガス中毒になるおそれがあります。

ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けない

- パワーステアリング装置が損傷するおそれがあります。

こんなことにも注意

J00200901280

運転中に自動車電話や携帯電話を使用しない

- 運転中、運転者が自動車電話や携帯電話を使用すると周囲の状況に対する注意が不十分になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転中、運転者がハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を使用することは法律で禁止されています。

オーディオの操作は停車してから

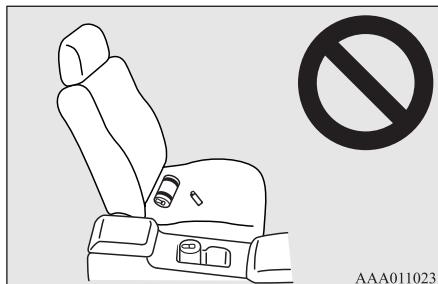
- 走行中にオーディオまたは、カーナビゲーションなどの操作をしないでください。
操作に気をとられて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

喫煙しながらの運転は控える

- 喫煙しながらの運転は控えてください。
注意がおろそかになり、思わぬ事故を招くことがあります。

車内にライター・炭酸飲料缶・メガネなどを放置しない

- 強い直射日光にさらされると車内が高温になるため、ライターなどの可燃物は自然発火したり、炭酸飲料やビールなどの缶は破裂するおそれがあります。また、プラスチックレンズまたはプラスチック素材のメガネは変形、ひび割れをおこすおそれがあります。

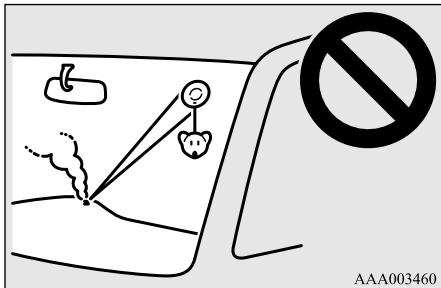


灰皿を使用したあとは

- 灰皿を使用したあとは、マッチやタバコの火は確実に消し、必ず閉めてください。
万一の場合、火災になるおそれがあります。

アクセサリー取り付け時の注意

- ウィンドウガラスなどにアクセサリーをつけたり、インストルメントパネルの上に芳香剤などを置かないでください。
運転の妨げになったり、吸盤や芳香剤の容器がレンズの働きをして火災など、思わぬ事故の原因となります。



AAA003460

- 塗装が施されている部分にはアクセサリーなどをつけないでください。
吸盤に含まれる特殊な成分により、塗装面がはがれたり、変色したりするおそれがあります。

タイヤ、ホイールは指定サイズを使用

- タイヤ、ホイールのサイズなどは国土交通省に届け出をしています。
- 指定サイズ以外のタイヤを使用したり、種類の異なったタイヤを混ぜて使用することは、安全走行に悪影響をおよぼしますので、避けてください。
→「タイヤ、ホイールのサイズ」P. 14-8
- ホイールは、リムサイズやオフセット(インセット)量が同じでも、車体に干渉したり、強度が不足して使えないことがありますので、お客様のお車に設定されている純正ホイール以外は使用しないでください。

ジャッキアップしたままエンジンをかけない

- ジャッキアップしたままエンジンをかけると、ジャッキから車体が外れ、重大な事故につながるおそれがあります。

違法改造はしない

- 法律で認められている改造以外は行わないでください。

また、日産純正部品以外の部品を装着すると、車の性能や機能に影響し、思いがけない事故が発生するおそれがあります。



電装品や無線機などの注意

- 電装品や無線機などを取り付けるときは、日産販売会社にご相談ください。

配線が車体に干渉したり、保護ヒューズがないなど取付け方法が適切でないと、電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは

J00201000353

燃料の取り扱いに注意

- 燃料を補給するときは火気厳禁です。燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
 - ・必ずエンジンを止めてください。
 - ・たばこ、ライター、携帯電話などは使用しないでください。
- 気化した燃料を吸わないように注意してください。燃料には有毒な成分を含んでいるものもあります。
- 給油中はドアおよびドアガラスを閉めてください。車内に気化した燃料が侵入するおそれがあります。
- 燃料をこぼさないように注意してください。塗装の変色、シミ、ひび割れの原因になります。付着したときは、柔らかい布などでふき取ってください。

静電気は確実に除去する

- フューエルフィラーキャップを外す前に車体や給油機の金属部分に触れて、必ず身体の静電気を除去してください。
静電気を帯びていると、放電による火花で気化した燃料に引火するおそれがあります。
- リッド（補給口）の開口、フューエルフィラーキャップの取り外しなど、給油操作は必ず一人で行い、補給口に他の人を近づけないでください。
複数で行うと他の人が帶電していた場合、気化した燃料に引火するおそれがあります。
- 給油が終わるまで補給口から離れないでください。途中、シートに座るなどすると、再帶電するおそれがあります。

フューエルフィラーキャップの取り扱いに注意

- フューエルフィラーキャップを開けるときは、急激に回さないでください。燃料タンク内の圧力により、補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルフィラーキャップをゆるめたときにシューッという音がしたときは、音がしなくなるまで待ってから、フューエルフィラーキャップをゆっくり回してください。
- フューエルフィラーキャップを閉めたときは、確実に閉まっていることを確認してください。確実に閉まってないと燃料が漏れ、火災になるおそれがあります。
- 日産純正部品以外のフューエルフィラーキャップは使用しないでください。

ガソリンスタンドの注意事項を守る

- ガソリンスタンドに掲示されている注意事項を守ってください。
- 補給口に給油ノズルを確実に差し込んでください。給油ノズルが正しく差し込まれていないと、燃料がこぼれるおそれがあります。
- 給油ノズルが自動的に停止したら給油を終了してください。つぎ足しを繰り返すと燃料があふれ出るおそれがあります。
- 給油方法についてご不明な点は、ガソリンスタンドの係員にご相談ください。

MEMO